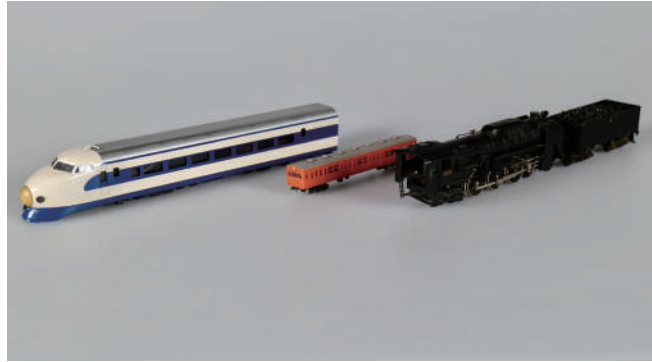


第 3 章 進歩

20世紀は技術進歩により、さまざまな製品が開発されました。例えば電子機器では超小型テープレコーダー、超小型テレビなどが登場しましたが、現代ではスマートフォン1台でテレビやラジオの視聴、録音などが可能となりました。これらの収納品は当時の科学技術の進歩を示すとともに、社会の進化や変化について考える機会を与えてくれます。



左から「新幹線 電車(動力車) 12号車 22形式」、「国電 クハ103型」、「汽車 機関車(炭水車付き) C62型」

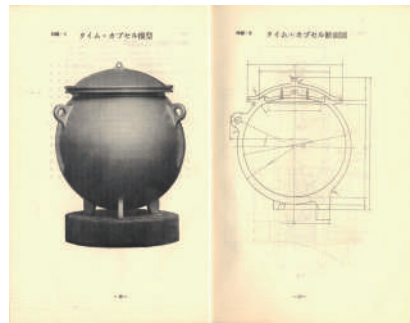
乗り物などのミニチュア・モデル
昭和時代 大阪歴史博物館蔵

新幹線は昭和39年(1964)に開通し、開業当時は東京～大阪間約552kmを4時間、万博開催時には3時間10分で結ぶ超特急電車で、日本を代表する交通機関となりました。以後、開業当時の〈ひかり〉最高速度210km/hの記録を更新し続けています。一方、消えゆく姿もあります。ミニチュアの「国電 クハ103型」は国鉄103系電車をモデルにしており、この車両はJR西日本線でわずかに運用されています。しかし蒸気機関車は気動車や電車の登場といった鉄道技術の進展に伴い、一部を除いて運用が終了しています。

付章 記憶

カプセルは昭和42年(1967)に企画が決定し、複数回の審議を経て製作され、埋設されました。5年に及ぶ大プロジェクトの経緯は議事録と報告書としてまとめられています。これらの貴重な資料を大阪万博の記念品とともに展示し、記録を“記憶”して次世代へと繋げていきます。

「技術関係経過報告」
昭和44年(1969) 大阪歴史博物館蔵



関連行事

■ 展示解説

日 時： 令和7年4月29日(火・祝)・6月8日(日)
※いずれも午後2時から30分程度
担 当： 奥本末世(当館学芸員)
会 場： 大阪歴史博物館 8階 特集展示室
参 加 費： 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要)
参 加 方 法： 当日直接会場へお越しください
事前申込不要

■ 16mm フィルム〈表情 1970〉デジタルリマスター上映会 ～カプセルに封印された昭和の記録、甦る20世紀の日常～

人々の生活、政治、文化、芸能、民俗…60年代～70年代を中心に日本のさまざまな断面を捉えた貴重なフィルム映画をデジタル化して上映します。

日 時： 令和7年5月3日(土・祝) 午前10時30分、午後1時、午後3時30分
※入れ替え制、各回75分程度
会 場： 大阪歴史博物館 4階 講堂
定 員： 各回250名(当日先着順、整理券配布)
参 加 費： 無料(ただし、常設展示観覧券が必要)
参 加 方 法： 当日直接会場へお越しください。各回開始30分前に会場前にて整理券を配布します。整理券はひとり1枚ずつお渡しします。

特集展示

オープン the タイムカプセル

会 場： 大阪歴史博物館 8階 特集展示室(常設展示場内)
観 覧 料： 常設展示観覧料でご覧になれます。

大 人 600円(540円)
高校生・大学生 400円(360円)

※() 内は20名以上の団体料金
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明証提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

令和7年4月16日(水)～6月23日(月)
展示担当: 奥本末世

開 館 時 間： 午前9時30分～午後5時
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日： 火曜日
ただし4月29日(火・祝)・5月6日(火・振休)は開館、
5月7日(水)は休館



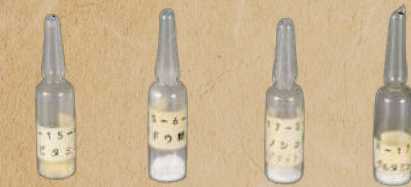
大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

〒540-0008 大阪市中央区大手前 4-1-32
電話 06-6946-5728 FAX06-6946-2662
https://www.osakamushis.jp/

特集展示

オープン the

①



②



③



⑧



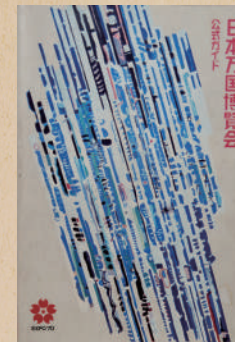
2025

4/16 - 6/23

WED

MON

⑤



⑥



⑦



1. 栄養剤、調味料
2. 医学関係(「視力検査表」、「舌圧子」、「ハンマー」、「聴診器」、「体温計」)
3. ハンドバッグとその内容品(「定期券」、「クレジットカード」、「縫いセット」)
4. 組み写真「ローラースケート」
5. 公式ガイドブック
6. 化学繊維
7. 乗り物などのミニチュア・モデル(部分)
8. タイム・カプセルEXPO'70(一部加工)

全て大阪歴史博物館蔵、8のみ1階にて展示



大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

火曜日休館
※ただし4月29日(火・祝)・
5月6日(火・振休)は開館、
5月7日(水)は休館

開催趣旨

本展ではタイム・カプセルEXPO’70にスポットを当てます。カプセルは昭和45年（1970）開催の日本万国博覧会（通称・大阪万博）を記念して、毎日新聞社と松下電器産業株式会社（現・パナソニック ホールディングス株式会社）によってつくられました。

当時の文化を象徴する物品が収集され、5,000年後の人類に向けて残すためにカプセルへ収納されました。カプセルは4機製造され、収納品を入れた2機が大阪城天守閣前の地下15mに埋設されました。地上用に残された2機のうち1機はパナソニックミュージアムに、残り1機と収納品が大阪市立博物館（現・大阪歴史博物館）に寄附されました。当館ではカプセルを1階に展示しています。

大阪万博から55年。再び大阪で万博が開催されることを記念してカプセルを“開封”し、2,098点に及ぶ物品と記録の中から「20世紀」「継承」「進歩」の視点で選りすぐった品々を紹介します。

※1 収納品はカプセルと別に保存しております。

第 1 章 20 世紀

収納品が収集された60年代後半から70年代前半は第1次ベビーブーム世代といわれた戦後生まれの団塊世代が社会で活躍し、新しい家庭を築いていった時代です。マイホーム主義という言葉も流行し、一家団欒の時間を大切にする傾向が強まります。またグループサウンズやゴーゴーのブームなど熱狂的な若者文化が花開いた時代でもあります。本章では写真や資料をもとに当時の社会状況や暮らしの様子、流行などを紹介します。



風俗に関する組み写真「ゴーゴー」
昭和43年（1968） 大阪歴史博物館蔵

ゴーゴーはロックのリズムに合わせて身体を激しく揺り動かす野性的な踊りで、男女問わずティーンエイジャーの間で大流行となりました。この写真はチェック柄のセットアップやサイケ調のシャツを着こなし、熱狂的に踊る若者たちを捉えた1枚です。



「ある1日の記録」
昭和45年（1970） 大阪歴史博物館蔵

「1日の行動を時間経過に従って記録して下さい」という依頼のもと行動記録の調査を行ない、一般人から有名人、政治家に至る44名のデータをまとめた記録資料。その多くは個人のルーティンが書き記されており、当時の人々の生活がいきいきと伝わる内容となっています。

大阪万博に登場したタイム・カプセルEXPO’70



（左）日本万国博覧会 松下館の展示風景 （右）大阪城天守閣前のモニュメント
提供：パナソニック ホールディングス株式会社



大阪万博開催の翌年（1971）にカプセル第1号機が100トクレーンを用いて地下15mの埋設溝へ降ろされました。8日後、第2号機が第1号機の上部に埋められました。

第 2 章 継承

本章では70年大阪万博開催時の社会で流通していた品々を紹介します。収納品には栄養剤のビタミンCや調味料のグルタミン酸、ハンドバッグに文房具、医療品、化学繊維など当時の人々の身近にあった物品が選ばれています。その中には近代社会で発明され、現代社会にも受け継がれている収納品も多くあり、今も私たちの生活を支えていることに気付かされます。



ハンドバッグとその内容品
昭和時代 大阪歴史博物館蔵

外出時に持ち歩く牛革のハンドバッグに「縫いセット」、「携帯用歯みがきセット」、「くし」、「定期券」、「ボールペン」、「クレジットカード」と身だしなみを整える用品や通勤に必要なものたちが入っています。内容品の歴史の長さは種々様々ですが造形や機能は現在とあまり変化のないことが見てとれます。



化学繊維
昭和時代 大阪歴史博物館蔵

大阪万博の時代に婦人服や裏地として使用されていた化学繊維の生地です。化学繊維は明治17年（1884）、フランスのシャルドンネ伯が人造絹糸（レーヨン）の製造と工業化に成功して以降、技術改良や合成繊維の開発といった発展を遂げてきました。化学繊維と博覧会のゆかりは深く、明治36年（1903）に大阪で開催された第五回内国勸業博覧会に人造絹糸が出展されたことは日本の化学繊維の歩みのなかで重要な節目とされています。